

～入所フロア 6月の行事～

♡ ジューンブライド 結婚式 ♡



皆様に挨拶しています



お尻で愛を誓いました



皆様に祝福を頂きました

6月の行事はジューンブライドに因み「結婚式」を行いました。職員が新郎新婦に扮し、利用者様は参列者となって結婚式の雰囲気を感じて頂きました。利用者様から「おめでとう」と大きな掛け声や拍手をいただくとともに、数名の方に代表して即興でスピーチも頂きました。特にスピーチが、素晴らしく立派なものでより雰囲気を盛り上げて下さいました。中にはご自身のことを思い出し懐かしむ方もおられました。ウェディングケーキを用意しケーキ入刀後、皆様に召し上がって頂きました。普段のおやつに加えてケーキも食べられるとのこと喜んで頂きました。

～新職員紹介～ (R5.4月～6月)

- 看護師（入所フロア） 2名
- 介護職員（入所フロア） 1名
- 介護職員（通所リハ） 1名
- ケアアシスタント 1名

が新しく仲間となりました。よろしくお願いたします。

—編集後記—

皆様いかがお過ごしでしょうか。コロナも5類へ移行され街中の雰囲気も変化してきている事を実感する日々をすごしております。老健でも面会の規制を緩和し、今後も積極的に各種講座の開催や、地域に出向き介護体験学習会を実施します。 (文責：久保田将伸)

箕面老健通信



令和5年7月発行

第47号

箕面市立介護老人保健施設の理念

1、人権尊重

自己決定権を尊重し、安全を確保して医療・看護・介護・リハビリテーションサービスを包括的に提供します。

2、在宅復帰・在宅支援

住み慣れた地域で生活できるように家庭復帰と在宅生活の支援を行います。

3、地域福祉の推進と福祉文化の創造

福祉がいつでも、どこでも、誰でも権利として享受できるよう支援します。

箕面市立介護老人保健施設

〒562-0014 大阪府箕面市萱野5丁目8番2号

指定管理者 箕面市社会福祉協議会

TEL 072-727-9530

FAX 072-727-3598

～3年ぶりにフロアでの面会を再開しました～

令和2年2月から厚生労働省の通達により新型コロナウイルス感染症対策として、当施設でも面会を中止とさせていただきます。その後、令和2年5月には感染予防のためフロアではなく1階ロビーにてスクリーン越しの面会を開始し、令和4年3月からはオンライン面会も開始しました。令和4年10月にはスクリーンが撤去でき対面での面会が可能となりましたが、感染の流行ごとに1階ロビーでの面会は一時的に中止となりました。オンライン面会では当施設の電波状況から途中で切れてしまうというアクシデントもありました。

そして、今年5月新型コロナウイルスが5類移行に伴い、約3年ぶりに5月22日から各フロアでの面会を再開することができました。ご家族様からは「利用してから初めて上に上がります。広いんですね。こんな空間で良いところに住まわせてもらって」などと喜びの声をいただきました。実際に生活している場所を見ていただくことができ、私たちスタッフも嬉しく感じています。

今後、以前のようにご家族様が自由に来所し、居室での面会や実際にご家族様がケアを行える(介護指導や相談ができる)時期が早く戻ってくることを願っております。



今後インフルエンザ等感染症が流行した場合は、面会ルールの変更をブログやエレベーター内に掲示する事がありますので、ご確認いただきますようお願い申し上げます。



～田中千足先生（前施設管理者）のコラム～

第4回 メダカ君、またまた襲撃される



悲しみは春の訪れとともにやってきた。
3月1日玄関を開けて、新聞を取りに出た私が見たものはなんとも恐ろしい光景だった。来ないだろうと高をくくっていたのに、もの見事にアライグマに襲撃された惨劇の跡だった。鉢は完全にひっくり返され、冬眠中のメダカたちは跡形もなく喰われてしまっている。右側の大きな甕には9匹の金魚がいた。メダカと違って2月から水面まで上がってきてまいた餌を元気よく食べてくれていた。

コーナンで買った金魚だから、そんな高価なものではないけれど、甕に近づくとすぐあがってきてくれて、よしよしゴハンをやるぞと餌を巻き、その食べっぷりを見て心なやませている。

そんな可愛い金魚が9匹残らずいなくなったのだ。
甕の周りの白いものは、包装に使う発泡スチロールの薄いフィルムを防寒用にぐるぐる巻いたものだ。汚らしい無残な爪痕が見て取れる。前号に載せたアライグマの襲撃は去年の8月27日のもの。それから指をくわえて傍観していたわけではない。11月3日にも別のツボが襲われた。



←5本の指の手形か足形が

「犯人はアライグマ」の動かぬ証拠だ。
鉢を置く金属製の棚の側面には防寒用のビニールシートを張っている。前面に百均で買ったメッシュパネル4枚を取り付ける。餌をやらないといけなから開閉式に取り付ける。側面にも1枚ずつ置いておく。前面にはスタレを垂らし、レンガを重石にしておく。棚に入れていない壺や鉢には



何枚かの木の蓋をする。ということで12月、1月の冬は乗り切り、2月になり氷も張らなくなったところから、水底の土の中に潜って冬眠していたメダカ君たちも昼間にはその朝まいた餌を食べしてくれるよう

だし、金魚たちはもっと旺盛な食欲をしめしてくれる。昼間の間は前面のスタレを上げ、鉢に被せる木の覆いをとってやる。抜かりなく夕方にはスタレを下ろし、木の蓋をしていたのだが、メダカ君たちが無事生活しているのに安心してしまい、2月の終わりには1日中スタレを上げっぱなしにしていたのだ。そうして悪夢のような3月1日がやってきたのだ。犯人がアライグマである証拠はタイルに残る5本指の足形、壺の口のところに引っかかる白と黒のまだら模様の毛だ。3月2日にも襲われた。3月7日にも襲われた。これで500匹あまりのメダカ君たち、9匹の金魚はすべていなくなってしまった。復讐の鬼と化した私は、アライグマ捕獲作戦に取り掛かるつもりだ。

復讐の鬼と化した先生の今後はいかに。皆様次回をお楽しみに♪～



～認知症サポーター養成講座～

今後高齢化が進むとともに、認知症の方も増加すると言われています。国会でも「認知症基本法」が令和5年年6月14日成立しました。今後5人に1人が発症する可能性がある認知症について正しい基礎知識を学び、身近な方々が発症した際に少しでもお役に立てればと講座を開催しました。

認知症サポーターには、

- 1.認知症に対して正しく理解し、偏見をもたない。
- 2.認知症の人や家族に対して温かい目で見守る。
- 3.近隣の認知症の人や家族に対して、自分なりにできる簡単なことから実践する。
- 4.地域でできることを探し、相互扶助・協力・連携、ネットワークをつくる。
- 5.まちづくりを担う地域のリーダーとして活躍する。

といったことが期待されています。

今回も市の広報誌（もみじだより）に掲載させていただき11名の希望者へ講義形式で実施しました。参加者の皆さんは、今実際にご家族を介護されている方、家族に少し認知症の傾向がみられる方、これから介護の仕事をする方など様々で、認知症への理解を深めていただきました。

「少し気持ちは楽になった」「認知症に対する理解が深まりました」「認知症の人ではなく、一人の人の個性として受け止められる様になりたいと思います」との感想をいただきました。

今後街中や身近な方々に少しでもお手伝いの手が入ればと願います。



～今年も胡蝶蘭の花が咲きました🌸～



以前入所されていた利用者ご家族様から、数年前に胡蝶蘭をいただきました。それを元施設管理者の川上先生が大切に育て株分けを行い、退職後は施設職員がお手伝いさせていただいております。去年きれいな花が咲き、今年もまたきれいな花を咲かせてくれました。老健の中は適度な日差しもあり、空調管理を行っており育ちやすい環境なのかもしれません。